

新城市民病院 地域実習

豊橋市民病院 研修医

新城市民病院における実習では大きく二つのことを学ぶことができたように思う。

一つ目が総合内科診療だ。患者はほとんどが高齢者であり、そのために症状は様々である。また、疾患も一つや二つではなく、数種類が混在していることも少なくない。初診外来を経験させていただいたが、そのマルチプロブレムに対して、鑑別疾患がしっかりと列挙できなかつたり、対応が遅くなつてしまつたりと自分に足りない部分が浮き彫りになった。外来にてどのように考え、アプローチしていくのかをみる良い機会が得られ、非常に学ぶべきことが多かつた。自身の志望科である小児科もジェネラルにみる科であり、通じる面があると思う。年齢層は違うが、今後活かす部分は多々あつた。

二つ目が地域における医療体制だ。先にも書いたように高齢者の割合が多く、そのため在宅医療の割合も必然的に高くなる。訪問看護、訪問介護、訪問リハビリ、老人施設などは地域医療にとっての非常に重要であることは実際に見学をしたことでより強く実感することができた。地域では高齢者の一人暮らしは決して珍しいことではない。上記の医療体制および施設の連携はこのような実習でなければなかなか学ぶことができない事項だろう。また、助産所の見学もし、地域での出産の困難さも教えていただいた。しんしろ助産所では県外の聖隷三方原病院と連携することで新城での出産を支えていた。医師の不足を痛感するとともにいかにしてその部分を補い、体制を整えているのかを目の当たりにした。実習前はただ漠然とした地域医療のイメージを持った状態であつたため、自分の知らない部分を多く知ることができ、いままでのイメージを払拭できたと思う。

その他にも、特に医療面では勉強になることがほとんどであり、とても充実した四週間を過ごすことができた。今後の自分の仕事に対してプラスになる部分をしっかりと活かし、今後につなげていきたいと思う。